



モジュール3-1

● 表題・枚数・時間

- 各論, 身寄りのない人の意思決定支援, モジュール 10 枚, 約 25 分

● モジュールの概要

近年、身寄りのない患者が入院することが多くあり、このモジュールでは、身寄りのない人の意思決定支援を扱う。

ここでは、身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドラインを読み解き、侵襲的医療行為の違法性阻却や、専断的医療行為の要件について示す。

● 講師からのキーメッセージ

1. 身寄りのない患者の意思決定支援について、患者が意思決定能力を有する場合、家族親族がいる場合、患者が意思決定能力を喪失している場合、身寄りがない場合について、慎重に判断することが必要である。
2. 意思決定していかなければならない場面は、医療行為の決定だけではないことを理解する
3. 成年後見人がいる場合についても、どこまで相談し、権限を有するのかを理解する。
以上を踏まえて、身寄りのない患者の意思決定の多様性に沿った支援のプロセスを体得する。

● モジュールの目標

このモジュールを修了すると、受講者は:

1. 身寄りのない人の意思決定支援の基本的プロセスを説明できる。
2. 身寄りのない人の意思決定の多様性に応じた対応と、必要な社会的リソースを利用することができる。
3. 身寄りのない人の意思決定支援において、患者の意思が不明であるが、緊急性がある(積極的)医療をする際の要件・プロセスを説明することができる。

● 事例を検討するにあたって

事例

- 事例をまず、4分割法に則って、整理をします。
- 必要な情報でありながら、不十分である情報があることに気づく。
- この事例は、内視鏡対応をするかどうかの選択肢が、純粹に医学的な判断だけでなされているかについても検討して欲しい。